



成人の日を迎えて

一月九日(月)は成人の日です。令和4年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられたため、前橋市は成人祝賀行事(成人式)を「第一回前橋市はたちのつどい」と名称変更し、平成十四年四月二日(平成十五年四月一日生まれの方達を対象として1月8日(日)に開催しました。今回は東地区の20歳を迎えた方から抱負や感想をいただきました。



成人としての自覚

稲荷新田町 石川 拓海

成人を迎えるにあたり、これまでお世話になりました地域の皆様へ感謝申し上げます。

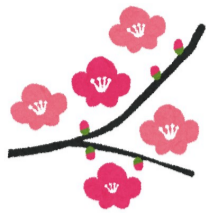
これまでを振り返ると、楽しかったのは小中学生のときです。そんな楽しかった日々を陰ながら見守ってくださっていた両親・地域の皆様にはとても感謝しております。

私は決して真面目な生徒ではなかったと思います。たくさんの方に迷惑や心配をかけたかもしれません。

現在は就職し、社会人として日々精進しております。新成人として、これまで以上に責任感を持ち、社会を支えていけるよう頑張っていきたいと思っています。

まとまりませんが、最後に今日私が笑顔でいられるのは、皆様のおかげです。

これから恩返しをしていけるよう頑張っていきたいと思えます。



成人を迎えるにあたって

上新田町 新井 一輝

私の二十年間の感想として、あつという間でもあり、長く感じた時期もありました。

その中でも、中学・高校時代は小学生時代に比べて色々学ぶことも増え、成長した時期でしたが、長く感じた時期でもありました。

勉強や部活動など取り組むべきことも増え、先輩や諸先生方より多くのことを学ばせていただきました。

人とは、多くの人と支えあい生きていくことを実感した次第であります。

今まで支えてきてくださった地域の方々を含め感謝申し上げます。

成人したとはいってもまだまだ学ぶべきことも多いですが、人の役に立つ大人になっていきたいと思えます。



成人式を迎えて

小相木町 並内 裕太

令和4年度の成人式を無事に迎えられたことを地域の皆様や両親へ心より感謝いたします。

登下校の途中でいつも地域の人が声を掛けて気遣ってくれたこと、暑い夏の日にお水をいただいたこと、トイレを借りたこと、交差点や街中で交通安全を見守ってくれたことを思い出します。

本心に心より感謝いたします。

私は今、大学に通っています。長いと思っていた四年間もあつという間ですが、これから色々なことに挑戦していきたいと思えます。

謝の気持ちを伝えたいです。

そして、清掃活動や草刈りなどでいつも町内がきれいに保たれていて、本当に凄いなと思います。

いつか気持ちとお金に余裕ができたなら、地域貢献ができる大人になりたいなと思っています。



出会いと思い出に感謝して

朝日が丘町 稲垣 拓朗

成人の日を迎えることができとても嬉しく思います。

私は十八年間を前橋で過ごしました。現在は大学生として実家を離れ折に触れて群馬県や前橋市のことを思い出しています。

朝日が丘幼稚園に通い、新田小学校ではクラスメイトに誘われてスポーツ少年団のアクティヴ新田で野球を始めました。

野球を通してできた友達は大切な宝物です。

前橋育英高校が甲子園で全国優勝し講堂での報告会に野球少年の心が躍った瞬間を今でも覚えています。

中学・高校は新島学園に通い、思いっきり部活動に集中した6年間でした。

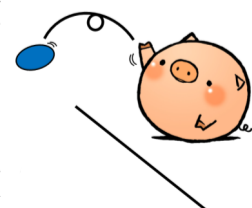
熱心にご指導してくださった先生方や苦楽を共にした仲間の方に感謝しています。

何より、この自然豊かな群馬県で、幼少の頃からのびのびと過ごすことができたのは、支えてくださった地域の皆様のおかげと感謝しています。

この気持ちを忘れずに一歩一歩成長してゆきたいと思えます。



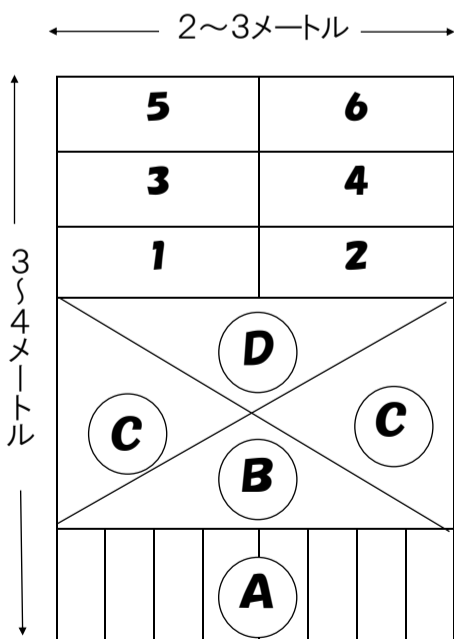
なつかしの子ども遊び



「冬の遊び 石けり」

昭和20年代末から30年代中頃まで、子どもたちは冬寒くても男女ともに、よく戸外で遊んでいました。女の子の多くは、縄跳び・まりつき・石けり・ゴム飛びで遊ぶことが多かったように思います。今回はその中から「石けり」を紹介いたします。

- ①石を用意。平たい円型の自然石や、駄菓子屋ではガラス製、瀬戸物の直径5センチ位の円盤型のもも売っていました。
- ②地面に棒やつま先で左のような図を書く。(アルファベットは説明用なので、実際には書きません)



- ③石を手に持った状態で、Aの8マスから右へ両足をつけて右へ跳ねながら歩いていく
- ④Aの一番右側のマスまで跳んだら、次にBへ片足で跳び、Cへ両足で着地する。
- ⑤Dへ片足で立って、そこから1〜6の点数の枠内に入るよう、手で石を投げる。※このとき、両足をついたり、点数の枠から石が出てしまったら、失効となり点数は入らない。
- ⑥Dのところまで片足のまま、点数枠に入っている石をとる。※このとき、両手を地面についても良いが、両足をついたら無効となる。
- ⑦石を取ったら、Dの枠内で片足で向きを変え、来たときと同様にCに両足、Bに片足、Aの8つの枠をはずれないように戻ると得点になる。
- ⑧何回戦かやって、合計点を競い合った。チームを組んでチームごとの合計点で対戦も楽しい。

様々な便利な遊び道具がある今の時代の子供達にはなじまないかもしれないが、自分の体(体幹も重要)を使ってやるこの遊びは、競い合うこともあり、やってみると夢中になる。ゆっくと時が流れていたあの時代の遊びは楽しかった。

(館報編集委員 木村 恭子)